

集会活動の手引き

3 集会原案と検討会

(1) 願いの共有化

集会をしたい、と言い出した子どもがいたら、まずその願いを学級全員に共有化させる必要があります。私は次の3つの方法を使っていました。

- ① 朝・帰りの会で呼び掛けさせる。
- ② 伝言板を用意し、おもむろにそこに貼る。
- ③ 「言い出しっぺ」一覧表をつくり、それに貼る。

(2) 集会原案の書かせ方

集会をすることが決まったら、集会の原案を書かせます。

① 集会のめあてをはっきりさせる

その集会を通してどんな学級づくりをめざすのか、はっきりさせておく必要があります。つまり、集会活動は、それを通して学級の問題を解決するというスタンスをもっておかないと、休み時間の遊びと同じレベルになってしまうのです。よくみるパターンとして次のものがあります。

- ・男女仲良くなろう。
- ・協力し合おう。
- ・自分たちでつくりあげよう。
- ・思い出を作ろう。

このめあて、基本的には「学級目標の達成」を目指させます。低学年の場合は教師側から提示することが多いのですが、高学年では自分たちに考えさせた方がよいと思います。

このめあてが、提案理由にもつながっていきます。

② 提案理由を書かせる

集会のめあてを提案理由としてまとめさせます。ドッジボール大会の例をあげておきます。

「今、私たちの学級では、男女の仲があまりよくありません。このままだと、学級目標の『みんな仲良く』が守れません。そこで、せっかく同じクラスになったのだから、男女仲良く生活できたらいいと思い、ドッジボール大会を提案します。」

③ 集会のめあてを集会名とし、学級の独自性を示すようにする

集会を通して学級づくりを目指すために、めあてが重要なファクターになります。そこで、単なる「ドッジボール集会」ではなく、「だれでもボールにさわれるドッジボール集会」というようにネーミングを工夫させます。このことによって、子どもたちに『自分たちの集会だ』という意識を持たせることができると同時に、何を工夫すればいいのか明確にすることができず。このようにネーミングを工夫することによって、その集会が学級ならではのものになります。そして、学級文化づくりに直結するものになるのです。その時のポイントは、子どもたちに、次の2つのことを日頃から呼び掛けるようにしておくことです。

☆この学級だからこそできる集会をしよう。
☆この学級でしかできない集会をしよう。

④ プログラムをていねいにつくる

プログラムは「はじめの言葉」で始まり、「終わりの言葉」で終わる、ということと、「終わりの言葉」の前に「先生の話」を入れることを押さえておけば、あとはいろいろな工夫をしていけばいいと思います。

次に、プログラムの詳しい説明を書かせます。原案を詳しくさせるポイントがここにあります。一つ一つの項目に関して次のことを書かせます。

- ア だれが行うのか。
- イ 時間はどのくらいかかるものか。
- ウ どんな準備が必要か。
- エ どんな内容のものをするのか。 など

このことは、提案者に**集会についての具体的なイメージ**を持たせるためにぜひ必要です。

⑤ その他、必要な事柄

- ア 会場図（椅子や机の配置、並び方など）
(途中で変わる場合には、2種類の会場図を書かせます。)
- イ 係分担（プログラムで書いた係を一覧表に表しておきます。)
- ウ 当日までの計画
(原案を書いた日から当日までどんな仕事があるかを時間経過にそって書かせておくといいですね。計画性を意識させるためです。)

(3) 原案検討会

原案が出来たら検討会（話し合い）を行います。

集会の全体の流れは事前に掲示しておきます。また、話し合いの部分も、流れと同様に学級会コーナーに掲示しておきます。

集会の原案は学級会コーナーに事前に掲示しておく

その時、付箋紙をいっしょに置いておき、質問したいことや疑問に思うことを自由に書かせて貼らせるようにします。質問に対する答えや疑問に思うことへの回答は、帰りの会などを使って説明します。

みんなで話し合って欲しい1~2つのことは、学級会で話し合いをします。詳しくは、「話し合い活動の手引き」を参照してください。

この話し合いで大切なことは、「提案理由にそった話し合いを行うこと」です。集会の内容は、子どもたちの「好き・嫌い」が明確になる場合が多いため、意見の強い子がいると、その意見に流されてしまう場合が多々あります。ここでも「集会活動を通して学級の問題を解決する」というスタンスを崩さないようしながら、折り合いをつける経験をさせることが大切です。

(4) 準備と実践と反省

原案が検討され、全員に認められたら、いよいよ集会の準備に取り掛かります。一人一役の考えで役割分担ができている場合と、グループで準備をする場合があると思います。全員が動く場合には、やはり時間を確保してやる必要があるでしょう。ただし、無限に与えてはいけません。

準備が整ったら、実践に移ります。実践を行う場合には、原案どおりに行わせることがポイントです。このことによって、原案の大切さに気づかせたいものです。このポイント以外は特にありません。とにかくめいっぱい楽しく集会を行ってください。

集会が終わったら、かならず反省を行います。集会のめあてにかえって、よかったところ、直したいところをはっきりさせておきましょう。この場合、かならず記録を取らせておきましょう。